

GAF尺度を理解して 使いこなそう

リエゾン訪問看護ステーションくまもと
管理者 古谷 宏幸

GAF尺度とは

精神科における重症度をはかる指標

EX) 高血圧→血圧
糖尿病→ヘモグロビンA1C

精神科では精神疾患の重症度を反映する臨床検査がなく重症度を数値化する【評価尺度】が用いられてきた。

GAFは、心理的、社会的、職業的機能を総合的に評価する評価尺度で健常者を含めたあらゆる精神疾患に対して使用できることが特徴

GAF尺度のつけ方

症状の重症度と機能の重症度に分けられる。

例)

前半は症状の重症度

60～51点

いくつかの軽い症状がある（例：感情が平板で会話がまわりくどい、時にパニック発作がある）

または社会的、職業的、または学校の機能における中等度の困難（例：友達が少ししかいない、仲間や仕事の同僚との葛藤）

後半は機能の重症度

GAF尺度のつけかた

- ①点数の高い方から順番にそれぞれ機能範囲のアンカーポイントを参照してその患者がどの機能範囲にあてはまるかを決定する
- ②症状と機能の点数が一致しない場合は、**低い方の点数**を採用する
- ③状態の合致する部分を見つけたら、それより低い機能範囲も参照してそこに当てはまらないか確認する

※**精神症状**に対して評価する、**身体機能や環境面**での制約については考慮しない

GAF尺度の注意点①

GAF尺度は治療の必要性や治療によってもたらされた病状の改善度を評価するために使用される。

【現在】における利用者の状態を評価する

一般的には過去1週間の最低レベルを評価する

GAF尺度の注意点②

精神症状を見逃すと、病状把握できずに評点が高くなる
利用者の精神症状を把握する必要があるが、**精神症状の確認を意識的**
しないと分からない

精神科での症状はコミュニケーション、アセスメントによって症状を
確認していく

症状を把握するには**メンタルステータスイグザミネーション**
(Mental Status Examination:MSE)が役立つ

明確な精神症状がある場合は70点よりは下になる
軽い不眠、抑うつ気分よりも重い症状あれば60点より下になる

GAF尺度の注意点③

看護のスタンスと混同しない

精神科では【ストレングスモデル】や【リカバリ】を重要視して利用者の健康的な部分や得意な部分に注目して看護援助を展開する傾向がある

G A F 評価とそれらを混同してしまうと評点のばらつきと病状の誤った判断につながるので注意が必要

〇〇という症状があるから70点より下になるといった減点方式で評定するほうが正確になる

GAF尺度の訓練方法

- 症例要旨法

症例要旨に基づいてGAF評価の練習をするもの

- レイダース・ミーティング

GAF尺度について理解できているスタッフを集めて、最近の状態について共通理解が成立している利用者をGAF尺度で評価したうえで各自の評点を照合、討論する。

これにより理解が深まり、食い違いを修正する

症例要旨法

- 症例

31歳の男性、アパートの個室に住んでいる。1週間のうち4晩は婚約者と過ごす。婚約者が一緒にいないといは寝付けないときもある。婚約者との関係は良いが、排他的でもある。婚約者との共通の友人はいるが、ほとんどが婚約者から紹介された人々であり他に親しい友人はいない。